

## 令和元年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（令和 2 年 3 月）

報告者氏名・所属	岩見沢校スポーツ文化専攻・奥田知靖		
研究プロジェクトの名称	多様なスポーツに発展する子どもの運動能力を育成するスポーツ指導者養成システムの構築		
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	奥田知靖（岩見沢校スポーツ文化専攻・准教授） 森田憲輝（岩見沢校スポーツ文化専攻・教授） 安部久貴（岩見沢校スポーツ文化専攻・准教授） 大山裕太（岩見沢校スポーツ文化専攻・准教授） 山本理人（岩見沢校スポーツ文化専攻・教授） 志手典之（岩見沢校スポーツ文化専攻・教授） 小倉晃布（岩見沢校スポーツ文化専攻・講師）		
研究プロジェクトの概要等（期間全体）			
<p>近年、小さい子どものうちは多様な運動に取り組む「早期多様化」の重要性が提唱され、子どもの将来の運動継続の可能性を考慮した指導理論が注目されている。これらのことから、平成 28 年度～平成 30 年度の北海道教育大学重点研究プロジェクト（代表：奥田知靖）において、幼少期のスポーツの専門的知識と実践的能力を身に付けた指導者を育成するプログラム「CAPS-Childプログラム」を開発した。しかし、このプログラムの講習会の継続的な運営には至っておらず、地域への研究成果の還元および普及について課題が残っている。そこで本研究プロジェクトでは、指導者養成プログラム「CAPS-Childプログラム」の内容をさらに充実させ、継続的な講習会の運営および指導者資格の認定を行うシステムの構築を目的とする。そして、本研究では 3 年間のスケジュールを以下のように計画している。</p> <p>1 年目は 2 つの課題に取り組む。1 つ目の課題は、幼少期の運動に関するデータ収集及び体系化である。これまでに収集したデータをまとめ学会等で公表しディスカッションすることにより新たな知見を得るとともに、必要に応じて新たなデータの収集および分析を実施する。これにより、指導者養成プログラムの充実及び発展をはかる。2 つ目の課題は、海外研究者と連絡を取り、次年度開催予定のワークショップの準備を進める。</p> <p>2 年目の課題は 2 つである。1 つ目の課題は、スポーツ指導者養成システムに関するワークショップの開催である。これによって指導者養成に関連する知見の収集、および地域スポーツ指導者の意見集約を実施し、継続的運営が可能な指導者養成システムを構築することである。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、次年度の開催の中止または延期について検討している。一方で、2 つ目の課題は、外部団体と連携し、学校体育や専門的スポーツ団体で活用できるプログラムの開発に取りかかる。</p> <p>3 年目の課題は 2 つである。1 つ目の課題は、指導者養成システムの実質運営である。本プロジェクト認定の CAPS-Child 指導者を継続的に輩出していく。2 つ目の課題は、本プロジェクトで発展させた指導養成プログラムの内容を基に、外部団体と連携し、学校体育や専門的スポーツ団体で活用できるプログラムを開発・提供することである。具体的には、スポーツクラブと学校を対象とした研修会を実施し、プログラム内容やパッケージ化されたボールゲーム指導教材の提供すること、また指導プログラムをまとめたハンドブックの配布およびホームページの公開である。</p>			
進捗度	1	← 番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味	

### 研究実績の概要（当該年度）

本年度の1つ目の課題は、幼少期の運動に関するデータ収集及び体系化であった。これまでの研究成果は、2019年度のECSS（国際学会）にて「Age differences in tactical ball game abilities in Japanese elementary school children」というテーマで発表し（2019年7月5日、プラハ）、日本体力医学会ではシンポジウム「子どもの運動習慣・体力と脳の発-実験室と現場をつなぐ-」を実施し、「小学生のボールゲームの戦術能力における創造性と認知機能の関係」というテーマで発表した（2019年9月21日、つくば国際会議場）。また、2019年12月に開催された北海道体育学会（開催地：釧路）で、「小学生における身長発育とSAQ能力およびBSSC運動遂行能力の関係-アロメトリー分析からの検討-」、「小学生におけるボールゲームの戦術能力に関する学年間の差異-3年生から5年生の比較-」、「10週間のバルシューレ教室が子どもの実行機能に与える影響」についての発表など、合計9件の学会発表を実施した。

また、岩見沢市立教育研究所と連携して実施した研修会「子どものためのボールゲーム指導プログラム～多様な運動経験と子どもの運動スキルの開発～」や、バルシューレジャパン C 級指導者養成講習会兼CAPS-Child講習会など合計10回の研修会でこれまでの研究成果について公表した。さらに、プロバスケットボールチーム「アルバルク東京」、プロ野球チーム「日本ハムファイターズ」との共同研究によって、子どもの体力・運動能力に関するデータの収集を行った。

今年度の2つ目の課題は、海外研究者と連絡を取り、次年度開催予定のワークショップの準備を進めることであった。現在子どものボール運動指導プログラム「Ballschule」の開発者であるクラウス・ロート博士と連絡を取り、2020年9月26日（土）・27日（日）に開催予定であったワークショップの打ち合わせを実施した。この打ち合わせは、2019年11月28日（木）～12月6日（金）に、ドイツ・ハイデルベルク大学で実施した。

### 今後の研究プロジェクトの推進計画

1つ目の課題は、ワークショップの開催とその知見を活用した指導者養成プログラムシステム構築であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、次年度の開催を計画できなくなったため、令和2年度のワークショップは中止し、令和3年度に延期することを考えている。これに伴い、当初は3年目に予定していたCAPS-Childプログラムのハンドブックの作成を令和2年度に実施する予定である。

2つ目は、外部団体と連携し、学校体育や専門的スポーツ団体で活用できるプログラムの開発に取りかかることである。令和2年度も、プロバスケットボールチーム「アルバルク東京」、プロ野球チーム「日本ハムファイターズ」と連携した共同研究を継続していく計画である。また、地域の総合型スポーツクラブの（一社）SLDIとも連携し、プログラムの開発にとりかかる。さらには、岩見沢市教育委員会と連携し、年10回開催される「楽しいキッズスポーツ」について連携して実施し、子どもの体力・運動能力の向上プログラムの実施や、それにかかわるスポーツ指導者（スポーツ推進委員）の指導者養成プログラムも実施する予定である。

### 教育現場や地域で活用可能な成果等

- ・本研究で体系化した「CAPS-Childプログラム」は、体育科教育の分野で、子どものボール運動スキルアップのための指導方法の研修に利用可能である。
- ・また、「CAPS-Childプログラム」は体育科教育分野のみならず、地域スポーツの指導者養成プログラムに活用できる。
- ・ステークホルダーの声を聞くため岩見沢市教育委員会やスポーツクラブと連携した事業を継続的に実施することで、地域スポーツ分野で子どものスポーツを指導できる人材養成のプログラムを開発し、この内容を発展させる仕組みができる。
- ・地域で抱える体力・運動能力の低下や認知的能力の開発の課題に対応する具体的プログラムとして、本研究成果を活用できる。

研究成果の公表実績（当該年度）

【著書】

【学術論文】（投稿中も含む）

1. 教科（保健体育）に関する科目「運動学」の授業改善の方策～学生の理解を図るための動画活用の実践～. 小倉晃布. 榎大学教職研究第4巻, pp.9-16, 星槎大学教職総合支援センター. 2019年8月.

【学会発表】

1. 24th Annual Congress of the European College of Sport Science. Prague. Age differences in tactical ball game abilities in Japanese elementary school children. 3-6 July 2019. Tomoyasu Okuda, Hisataka Ambe, Yuzo Nakase, Shinya Bono, Noriteru Morita.
2. 第74回日本体力医学会大会. 「始業前の朝運動が子どもの認知機能に与える影響：持続効果に関する予備的検討」. 2019年9月21日. つくば国際会議場. 高橋生季・石原暢・紙上敬太・阿部陽介・安ヶ平萌子・中島寿宏・奥田知靖・山本理人・森田憲輝.
3. 日本体育学会. 「保健体育科教員養成における教科に関する科目「運動学（運動方法学を含む。）」の内容検討－学生への事前・事後アンケートの結果をもとに－」. 2019年9月12日. 慶応義塾大学. 小倉晃布.
4. 北海道体育学会第59回大会. 「小学生における身長発育とSAQ能力およびBSSC運動遂行能力の関係－アロメトリ－分析からの検討－」. 2019年12月14日. 北海道教育大学釧路校. 志手典之・森田憲輝・奥田知靖.
5. 北海道体育学会第59回大会. 「小学生におけるボールゲームの戦術能力に関する学年間の差異－3年生から5年生の比較－」. 2019年12月14日. 北海道教育大学釧路校. 奥田知靖・安部久貴・中瀬雄三・房野真也・森田憲輝.
6. 北海道体育学会第59回大会. 「10週間のバルシューレ教室が子どもの実行機能に与える影響」. 2019年12月14日. 北海道教育大学釧路校. 高橋生季・奥田知靖・辻本智也・森田憲輝.
7. 第24回日本アダプテッド体育・スポーツ学会 学会大会. 特別支援学級の体づくり運動における「バルシューレ」の有用性－ダウン症児Aの事例から－. 2019年12月大阪. 大山祐太.

【シンポジウム】

1. 第74回日本体力医学会大会シンポジウム「子どもの運動習慣・体力と脳の発-実験室と現場をつなぐ-」. 2019年9月21日. つくば国際会議場. 紙上敬太・森田憲輝
2. 第74回日本体力医学会大会シンポジウム「小学生のボールゲームの戦術能力における創造性と認知機能の関係」. 2019年9月21日. つくば国際会議場. 奥田知靖.

【セミナー・研修会等】

1. 「子どものためのボールゲーム指導プログラム～多様な運動経験と子どもの運動スキルの開発～」研修会. 2019年8月6日（火）. 岩見沢市教育研究所.
2. 「バルシューレジャパン C級指導者養成講習会」. 2019年8月20日（火）・23日（金）. 千葉県成田市.
3. 「バルシューレジャパン C級指導者養成講習会」. 2019年8月31日（土）・9月1日（日）. 幕別市スポーツセンター.
4. 「バルシューレジャパン C級指導者養成講習会」. 2019年11月2日（火）・3日（金）. 東京都新宿区.
5. 「バルシューレジャパン B級指導者養成講習会兼CAPS-Child講習会」. 2019年12月15日（月）～19日（木）. 北海道教育大学岩見沢校ほか.

6. 「バルシューレジャパン C 級指導者養成講習会兼CAPS-Child講習会」. 2019年12月20日（土）・21日（日）. 北海道教育大学岩見沢校.
7. 「レッツ！バルシューレ」. 2020年1月12日（日）. 帯広の森体育館.
8. 「土別スポーツ少年団バルシューレキャンプ」. 2020年2月1日（土）・2日（日）. 朝日農業者トレーニングセンター.
9. 「第15回全国障がい者スポーツ指導者研修会 第5分科会」. 2020年2月15日（土）・16日（日）. 旭川医科大学.
10. 「身体活動実践研修会～ドイツの幼児・障害児へのボールを用いた支援を学ぶ」. 2019年2月22日. 弘前大学教育学部附属特別支援学校.

【テキスト、報告書、研修資料等】

添付資料	<p>1. 研修会資料：「子どものためのボールゲーム指導プログラム～多様な運動経験と子どもの運動スキルの開発～」</p> <p>2. 共同研究報告書（プロバスケットボールチーム「アルバルク東京」, プロ野球チーム「日本ハムファイターズ」）</p>
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	<p><a href="http://www2.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/?uid=okuda">http://www2.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/?uid=okuda</a>  <a href="https://sldi.club/">https://sldi.club/</a></p>
問い合わせ先	<p>氏 名：奥田知靖          電 話：0126-32-0342          E-mail：okuda.tomoyasu@i.hokkyodai.ac.jp</p>